

巻頭特集

大阪成蹊大学

教育学部 特別座談会

教育学部が開設されて4年。今春には第1期生が卒業を迎え、教員として活躍しはじめます。また、4月には新たに「中等教育専攻（英語教育コース・保健体育教育コース）」が加わり、さらに大学院「教育学研究科教育学専攻」が開設されるなど、進化を続ける本学の教員養成。今回は教育学部で学んできた学生と教員が、これまでの学びと将来について語ります。



安部 まずは教員を志したきっかけを教えてください。

瀬戸口 教員であるおじが生徒と向き合う姿に憧れたのがきっかけです。体育科の指導に興味があり、スポーツ生理学が専門の安部先生のもとで学んできました。春から堺市で小学校教員として働きます。

野原 小学校の頃の優しく楽しい先生との思い出が忘れられず、自分もそんな先生になりたいと思いました。豊能地区に合格しました。

松永 小学校の頃の担任の先生が、スポーツや体を動かすことを通じて生徒と積極的にコミュニケーションを図る素敵な方で、当時からこんな教員になりたいと思っていました。大阪市で小学校教員になるのが目標です。

丸尾 歳の離れた弟・妹がいて、昔から子どもと接することが好きでした。小学生だった妹に算数を教えている時にうまく伝えてあげられなくてもどかしい思いをし、子どもの役に立ちたいという思いから教育に携わることを志しました。

縦・横の強い繋がりと、一人ひとりの成長をサポートする少人数制



安部 皆さんが思う教育学部の魅力は何ですか？

瀬戸口 横はもちろん縦の繋がりが強いことですね。オープンキャンパスのサポートや様々な企画に取り組む中でも先輩が後輩をしっかり引っ張りながら、協力して動きます。僕は去年からチューデントアシスタント(学生が講義・演習の教育補助を行うもの)もさせていただきました。

安部 「教わった内容を後輩に還元しよう」という姿勢にはいつも感じます。他には何かありますか？

松永 ゼミに分かれるまでは「少人数担任制」で25人程のクラスで学ぶなど、良い意味で規模が大きすぎない点も魅力です。一人で悩んだり出遅れたりすることがない。

野原 模擬授業が多いのも魅力です。学生を見童に見立てて授業をするのですが、瀬戸口くん「淡々と進め過ぎ、もっと自分らしさを出せ」と突っ込まれたことがあります(笑)。それから気をつけることができました。

太田 瀬戸口くんはどんな方法でオリジナルティを出すの？

瀬戸口 教材以外の面白そうな資料を用意したり、表情や表現に気をつけたりしますね。算数で「色々な三角形をグループに分けよう」というテーマの時、普通に説明せず「今日はいっぱい三角形を持ってきたぞ！」と言って模型を出し、「どの仲間でしょう？」とクイズ形式で黒板に貼っていくみたいな。演じることも心がけています(笑)。

安部 彼は子どもの興味や関心の引き方がとてもうまいですね。



▲小学校実習室での模擬授業の様子

教育実習で見た課題

太田 教育実習はいかがでしたか。

丸尾 2年次の「教育インターンシップ」で会った子どもたちが私を覚えていてくれて、とてもスムーズに取り組むことができました。子どもは、ほんの短い間でも成長していくのがわかる。その成長を1年・2年…とそばで見られたら、本当に素晴らしいだろうなと思いました。当然ですが、担任の先生と自分では子どもたちとの信頼関係の深さが全然違うということも痛感しました。あと授業の事前準備をもっと万全にしたかった。他にも課題はたくさん見えました。

初等教育コース3年
丸尾 彩美

初等教育コース3年
松永 宏太郎

初等教育コース4年
瀬戸口 琢耶
堺市合格

初等教育コース4年
野原 遥
豊能地区合格

教育学部教育学科 初等教育コース主任
辻村 敬三 准教授

教育学部教育学科 学科長
安部 恵子 教授

教育人材育成センター センター長
太田 清和

人を育てる喜びを知ろう 大阪成蹊大学 教育学部だからできたこと



安部 中には現場の先生方から愛ある厳しいご指導をいただく学生もいます。それでも、それを批判的に捉えたり「私は教員に向いていない」と投げ出したりする学生はいません。なぜなら、課題があることが問題ではなく成長の糧だと認識しているからです。

辻村 そうですね。現場からはよく「大阪成蹊の学生さんは主体的で、子どもたちへの入り方もとても自然」と言っていました。例えば2年次の「教育インターンシップ」は基本的には見学のみですが、かなりの学生が少し(授業を)やってみないかと声をかけていただいています。「この学生ならばもっと育てたい」と思っていたからこそのでしょう。実習に先立ってそうした経験を積めるのは大きなことだと思います。

▼1年次からはじまる豊富な現場実習

1年次	2年次	3年次	4年次
見学実習 【小学校】【中学校】 【高等学校】【幼稚園】	教育インターンシップ 【小学校】【中学校】 【高等学校】【幼稚園】	教育実習 【小学校】【中学校】【高等学校】 【幼稚園】【保育所】 4週間	
保育実習 【保育所】【施設】 2年次に保育所へ10日間、3年次に施設へ10日間、 4年次に保育所または施設へ10日間			
	介護等体験 【特別支援学校】 【社会福祉施設】 合計7日間		

※コースにより行う実習は異なります。※中学校、高等学校での教育実習は2018年4月より実施予定。

「教育人材育成センター」で行われる
安心の教員採用試験対策

太田 1年次からの「教職キャリア科目」では、教職教養・一般教養の知識を修得します。3年次には都道府県別の教育施策など学びを深め、現役合格をめざします。加えて教育人材育成センターでは、正課外の教員採用試験対策講座を開講しています。もちろん講座以外でも質問を受け付けているので、学生は頻繁にセンターを訪れます。

松永 本当に「悩んだらセンターに行こう!」という感じです。試験問題のここが分からない、など小さなことでもいつでも聞きに行きます。

辻村 教員は常にセンターとやり取りをして、個々の学生の状況を細かく把握しています。進捗状況に不安のある学生がいればすぐにフォローを入れています。

これからどんな教員になっていきたいか

太田 最後に皆さん、将来どんな教員になりたいですか。

瀬戸口 「子どもと一緒に成長できる教員」になりたいです。時代が変われば子どもが変わり、教育も変わる。日々学び続けて、柔軟にスキルアップしていきたいです。

野原 最近は「僕は、私は良い所ないし…」と、自己肯定感が低い子どもが多いですが、好きなことや得意なことを気づかせてあげられるような言動が自然にできる教員になりたいです。

松永僕は「子どものことを一番に考える先生」になりたいです。教員をめざすきっかけになった先生も、自分たちのことを一心に考えてくれているのが伝わってくるからこそ信頼関係がありました。子どものために尽くしたいです。

丸尾 子どもたちがお互いの良いところも悪いところも認め合って補い合い、安心して通える学級作りをしたいです。一人ひとりのことをきちんと理解してあげたいですね。

安部 皆さんが教育学部の学びを活かし、現場へ羽ばたくことが本当に嬉しいです。

今後は卒業生が、教員として働きながら学び続けることができる研究会なども作る予定です。いつまでも教育学部が皆さんの学びの拠り所であってほしいものです。また、4月に立ち上がる

大学院「教育学研究科」にも現職で働きながら学べる制度が整っていますから、意欲ある方にはぜひチャレンジしてほしいです。同じく4月からは新たに「中等教育専攻」も加わります。受験生の皆さんはどうぞ進化し続ける教育学部に期待しててください。大阪成蹊大学教育学部で、共に学びましょう。

教育学部の未来[2018年4月開設]

教育学部 教育学科 中等教育専攻

英語教育
コース中学校・高等学校の英語の先生、
英語に強い小学校の先生をめざす。

外国語活動が小学校から必修化、中・高の英語授業はオールイングリッシュとなる中、英語教員の役割はますます重要になります。英語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を重視し、グローバル教育を推進する教員を育成します。現場学習では国内での実習に加え、海外の教育現場を訪問し国際的視野を広げます。

取得可能な教員免許状

中学校教諭一種免許状(英語)	◎
高等学校教諭一種免許状(英語)	◎
小学校教諭一種免許状	○

◎:中等教育専攻 英語教育コースの主たる取得免許状
○:中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)を取得した上で取得が可能

想定される進路

中学校教諭(英語)
高等学校教諭(英語)
中高一貫校教諭
小学校教諭
小中高一貫校教諭
公務員
英語関連企業 など

保健体育
教育コース中学校・高等学校の保健体育の先生、
体育に強い小学校の先生をめざす。

運動や健康に関する高い専門性と技能を持った教員を養成します。体育授業・クラブ指導のスペシャリストをめざし、生徒一人ひとりの体の特性を踏まえた体育授業やクラブ指導の理論と実践を学びます。また生涯スポーツや疾病予防にも視野を広げ、幅広い学びで夢を実現します。

取得可能な教員免許状

中学校教諭一種免許状(保健体育)	◎
高等学校教諭一種免許状(保健体育)	◎
小学校教諭一種免許状	○

◎:中等教育専攻 保健体育教育コースの主たる取得免許状
○:中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得した上で取得が可能

想定される進路

中学校教諭(保健体育)
高等学校教諭(保健体育)
中高一貫校教諭・小学校教諭
小中高一貫校教諭
公務員・教育関連企業
スポーツトレーナー
病院院内フィットネス など

大学院 教育学研究科教育学専攻(修士課程)

「省察的研究」のできる実践者を養成

教職専門のみならず、学校と地域、現代社会についての深い理解をベースに、様々な関係者と理論や価値観、実践を分かち合い、教育の創造へと導くことのできる人材を養成します。現職で働きながら学べる制度(※)も整っています。

※授業科目は平日夜間や、土曜日、長期休暇中に開講。
※2年間の修了が困難な方に対し、2年分の学費で3～4年間の計画的な履修を認定。

取得可能な資格・免許状

小学校教諭専修免許状、
幼稚園教諭専修免許状

■ びわこ成蹊スポーツ大学

学長就任のご挨拶

スポーツ大学の パイオニアとしての 自覚と躍進

びわこ成蹊スポーツ大学 学長 入口 豊

学歴	1973年3月	大阪教育大学教育学部 中学校課程保健体育専攻卒業
	1974年3月	大阪教育大学教育学部 教育専攻科修了
	1977年3月	東京教育大学(現 筑波大学)大学院体育学研究科 修士課程修了(体育学修士)
職歴	1977年4月	大阪教育大学教育学部保健体育講座 助手
	1982年4月	大阪教育大学教育学部保健体育講座 講師
	1985年4月	大阪教育大学教育学部保健体育講座 助教授
	1993年3月	ボストン大学文部省長期在外研究員
	1996年11月	大阪教育大学教育学部保健体育講座 教授
その他の活動	2014年4月	関西学生サッカー連盟 評議員
	2008年4月	国立大学法人 大阪教育大学学長補佐 併任
	2010年4月	国立大学法人 大阪教育大学キャリア支援センター長 併任
	2014年4月	国立大学法人 大阪教育大学 理事・副学長(2017年9月退職)
	2017年10月	学校法人大阪成蹊学園 顧問、 びわこ成蹊スポーツ大学 学長 就任



このたび、2017年10月19日にびわこ成蹊スポーツ大学学長に就任しました、入口です。

本学は、琵琶湖と比良山系の豊かな自然に恵まれた立地の中で、「我が国の閉鎖的な体育思考から脱却した、国際的に通用する新しいスポーツ文化を創造すること」を理念として2003年に開学した我が国初で唯一の「スポーツ」を大学名に冠した若い大学です。

本学のスポーツ学部スポーツ学科における「野外スポーツ」「地域スポーツ」「学校スポーツ」「トレーニング・健康」「コーチング」「スポーツビジネス」「スポーツ情報戦略」の7コースは、競技スポーツから生涯スポーツまでスポーツに関する多様なニーズに応えられる実践的プログラムのもと、これまでに約3,000名にのぼる卒業生を輩出し、すでに社会の多方面から高い評価を頂いております。2012年には、大学院スポーツ学研究科も創設して文武両道のスポーツ指導者育成に邁進しております。

■ 体育からスポーツへ時代を先取りした本学の教育

本学大学案内のキャッチフレーズは、「さあ、五感で学ぼう」です。スポーツは音楽、美術等の芸術分野と同様に、人種や言語の違いをこえて世界中の人々がまさに五感で感じ合える人類普遍の共通文化として位置付けています。最近の「スポーツ庁」の設置にも象徴されるように、我が国でこれまで幅広く使用されてきた「体育」の表示は、国際的にも理解を得やすい「スポーツ」へと変化しつつあり、すでに2018年4月から「日本体育協会」が「日本スポーツ協会」に名称変更されることが決定しています。さらには、「体育の日」を「スポーツの日」に、「国民体育大会」(国体)を「国民スポーツ大会」へと名称変更することも検討されています。本学が2003年より既存の体育系大学、体育学部とは一線を画すことを意図して、時代を先取りした「スポーツ大学」を標榜してきた努力がようやく実ろうとしています。

■ 競技力の高度化と生涯スポーツの共存をめざして

私はこれまで、国立大学法人大阪教育大学において37年間保健体育教員として奉職し、その後3年半の法人役員理事・副学長職を経て、この度縁あって光栄にも学長として本学にお世話になることになりました。大阪教育大学奉職中は、教育、研究のかたわら、長年にわたって体育会男・女

サッカー部の部長・監督として学生達を指導してきましたので(男女共に近畿地区国公立大学では1位)、その指導経験も何らかの形で本学に貢献できるのではないかと考えております。

私にとっては、競技力の高度化をめざす「競技スポーツ」と、大衆化・健康志向の非競技系「生涯スポーツ」が共存することは何ら矛盾しません。多様なプログラムを用意して社会のスポーツに対するあらゆるニーズに応えていく本学の方針が、成果として表れる日がきっとやってくると信じております。しかしながらその一方で、「スポーツ大学」である以上は、競技力向上と競技成績に対する世間の期待の眼は厳しいものがあり、その期待に応えることは本学の知名度、好感度を上げて行く上でも必要不可欠な要素であると痛感しております。

■ 一貫した「学生第一主義」唯一無二のスポーツ大学へ

近畿圏内だけでも、類似の体育系・スポーツ系学科、専攻を持つ大学が増加し、学生獲得競争は益々激化しております。私は、本学の風光明媚な琵琶湖畔の立地を活かして、あくまで「学生第一主義」を貫き、スポーツに興味、関心を持って入学してきた学生達が本来来て良かったと思っ卒業できる環境整備に邁進したいと考えております。幸いにも本学には、全スポーツ分野、全研究分野において有能な教員が揃っておりますので、その先生方のエネルギーを結集して、わが国初、唯一無二のスポーツ大学としての看板を一層磨いて行きたいと考えております。

ようやく15歳の少年期から青年期にさしかかる本学を20歳の立派な成人に成長させること、すなわち「スポーツと言えればびわこ成蹊スポーツ大学あり」と言われるように、スポーツ大学のパイオニアとしての自覚の上に、学生・教職員一丸となって本学を新たな次元へと躍進させるために全力を尽くすことが私の責務であると考えております。関係の皆様には、本学の益々の発展のために一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



■ 大阪成蹊短期大学

副学長就任のご挨拶

短期大学と高等学校の 連携強化に向けて

大阪成蹊短期大学 副学長 兼
大阪成蹊女子高等学校 校長 紺野 昇

■ 高短連携による 教育レベルの向上

2017年10月より大阪成蹊短期大学の副学長を兼務することになりました。大阪成蹊女子高等学校からは毎年多くの生徒が大阪成蹊短期大学に入学しており、2017年度は179名の生徒(志望者の94%)が内部進学しています。一般的に短期大学志望者の数が伸び悩む中で、高校と短期大学の学園内連携を深めることは、これからの学園の発展のために重要な方針であると考えています。

高校の教育課程の中に短期大学の学びと繋がるカリキュラムを組み、短期大学の学びを高校に取り入れる。これにより、高校の教育内容のさらなる充実、魅力ある学校づくりに繋がります。高短連携による高校の教育レベルの向上は、内部進学のみでなく、多くの生徒が進学する大阪成蹊短期大学の発展と安定経営にも大きく寄与します。学園内連携の意義は、本学園設置校すべてが同一体となって発展することにあるのです。

現在、大阪成蹊短期大学では教育改革プロジェクトを展開し、教育課程の抜本的な改革

や英語教育・初年次教育の充実など、多面的に高等教育の進化をめざして

います。これらの進化は、現在の多様な学びと抜群の就職率に加えて、「教育の成蹊」、「実学の成蹊」としてさらなるブランド力の向上と魅力づくりの原動力となるものです。大阪成蹊短期大学は、国文、英文、幼児教育を起点とした70年近い伝統ある実績に加え、栄養、調理・製菓、生活デザイン、観光、経営会計、グローバルコミュニケーションを加えた7学科13分野の充実した総合短期大学として、多く

の学生のニーズに応えています。社会や学生の要請を先取りした本学の「進取の精神」は、建学の精神「桃李成蹊」から派生するものです。

今後益々発展する大阪成蹊短期大学の教職員の一員として、皆様のご理解とご支援を得て、微力ながら精一杯努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



大阪成蹊学園の教育改革プロジェクト 学修成果を発揮する機会の充実



大阪成蹊大学 学長
武蔵野 實

大阪成蹊学園では、3年前より大学教育の抜本的改革をめざして「教学改革会議」を立ち上げ、学生の人間力を強化する取り組みを全学の教職員が協働で推進しています。今年度は、教育の質の保証に向けた取り組みとして24のプロジェクトを設定し、それぞれのプロジェクトチームによる改革案の策定と実施が進められています。「学修成果を発揮する機会の充実」プロジェクトはその一つで、教育改革の中で大きく発展した学生の学びの成果を発表することを目的としたものです。

これまで、学生の学修成果を発揮する機会は、作品制作展の開催や授業の中で行われるプレゼンテーションなど、主として各学部・学科単位で取

り組まれてきました。例えば芸術学部では従来から3年生展や卒業制作展が実施されており、産官学連携PBL（課題解決型学習）の成果発表会なども行われています。また留学生を対象とした「日本語スピーチコンテスト」や、短期大学での英語スピーチコンテストなども開催されてきました。

これに関して今年度は、全学的でより多くの学生が参加する発表会の取り組みを進めてまいりました。それが、下で紹介する「大阪成蹊大学・短期大学5大会」です。5つの発表大会の開催で、学部・学科の壁を超えた学びの成果の交流ができることとなりました。また、この取り組みは、学生が自己効力感を高め、自分たちの学びの成長を確

信できる発表の機会となっています。優れた発表は学園として表彰するだけでなく、全学の学修成果の模範とし、今後学修活動がより発展していくことへの期待を込め、奨学金等も授与することとしています。

これらの機会が、学生諸君のアクティブラーニングを軸とする学修への自信と喜びに繋がれば幸いです。さらに、5大会と限定せず、本年度以降6大会、7大会…と、より多くの全学的な発表大会の企画も視野に、一層の充実を図ってまいりたいと思います。

学びの成果を披露!

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 5大会

Ⅱ 大阪成蹊大学

01 “大阪成蹊カップ”プレゼンテーション大会 企業の課題に対して企画を提案

マネジメント学部・芸術学部の「キャリア教育科目」の授業では、企業から提示された課題に対してチームで解決策を考える「企業連携PBL（＝課題解決型学習）」に取り組みます。「大阪成蹊カップ」はその成果を発表する場として開催され、代表チームがそれぞれの企画とプレゼンテーションの完成度を競います。

2017年9月に開催された第1回では、企業の抱える課題に対して、学生ならではの視点や学びの内容を活かした様々な企画が出揃いました（課題提示企業 マネジメント学部：リーガロイヤルホテル大阪、芸術学部：川崎重工グループ）。マネジメント学部の最優秀チームは、「ウェブ予約にてファミリー客や女性客といった個人旅行客をいかに集約するか」というホテルの課題に対し、「屋形船に乗って食事や大阪観光を楽しめるプランに、ウェブ予約特典をつけて予約を誘導する」という内容の企画を提案。芸術学部の最優秀チームは、「川崎重工グループの採用活動促進」という課題に対し、電車内広告で企業オリジナル漫画を掲載し応募者を増やすという、芸術学部生らしい斬新な案を提示しました。

学生たちはこの大会を通して、実社会の中で役立つ総合的な判断力を身につけると同時に、自分の考えを上手くPRすることの重要性を学ぶことができます。



Ⅱ 大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

02 読書コンクール 知識と感動を伝える

学生時代の今こそ、生涯の友となるような素晴らしい本に出会ってほしい。図書館ではそういった思いから、学生の皆さんに読書の素晴らしさを体験する機会を提供し、自発的な読書習慣を身につけてもらえるよう、様々な取り組みを行っています。

「読書コンクール」もその一環で、2017年12月にはなんと約800名の学生が参加しました。コンクールは3部門から成ります。「読書感想文部門」では、1冊の本から得た知識や感動を整理・分析して、自身の思いを文章にしたためます。「書評部門」では、より客観的な視点で本の内容を批評し、本と読者を仲介する説得力を持った文章にまとめます。「POP部門」は、文章やイラストを使って本の魅力を表現し、それを見た人が思わずその本を読みたくなるようなPOPを募集するものです。それぞれの部門を通して、知識を深めることはもちろん、物事を深く考え、自分の考えを正しい日本語で表現できる力を養います。これらのことは、今後の人生のあらゆる局面で他者と円滑にコミュニケーションを図る力を養うことにも繋がります。

コンクールという形で学生が読書で培った成果を発表する場を提供し、そこでの成功体験により、学生が自己肯定感を高く持ち、あらゆる物事に自信を持って積極的に取り組み、力を発揮できるようになることをめざしています。



Ⅱ 大阪成蹊大学

03 卒業研究発表会・卒業制作展 専門分野の学びの集大成

大学は専門分野の学問をより深く追求する場であるとともに、社会で起る様々な出来事を「課題」として認識し、解決・発信する力を養う場でもあります。学びの中で出会った課題に対して専門分野の視点から調査・検証を繰り返す— そんな4年間の学びの成果は、「卒業研究」、芸術学部では「卒業制作」に集約されます。これらは学生が大学でどのような専門知識やスキルを身に付けたのかを確認する「学修成果の見える化」としての役割を果たします。

社会や個人、それらを取り巻く文化を考察し、ふさわしいテーマを見つけて調査・研究する。または各自がデザインの価値を理解し、時代や社会との関わりを意識したテーマ設定・コンセプト構築を行なう。こういった一連の経験を通じて、さらなる深い学びが生まれます。また成果物の内容そのもののだけでなく、より分かりやすく伝える方法や表現を考えプレゼンテーションや質疑応答に臨んだり、作品の展示方法を工夫したりすることも求められます。

発表会、制作展は優秀論文・優秀作品の選考プロセスも兼ねますので、作成に向けたモチベーションや論文・作品の質の向上にも寄与するものと期待されます。制作展は学内外に開放され、発表会も他学年が観覧できるよう学内で見学開放します。1～3年生は先輩の背中を見て、自身の学びや目標設定にも繋げてほしいと思います。

Ⅱ 大阪成蹊大学

04 英語コンテスト 海外での学びを英語で発表!

2018年度より開催予定の「英語コンテスト」は、マネジメント学部国際観光ビジネス学科（2018年4月開設）の1年生全員が参加するカナダ・バンクーバーでの「短期海外研修」で得た体験について、パワーポイントで資料を作成し、英語で発表するという大会です。短期海外研修では、現地の語学学校で英語授業を受けながら現地の家庭にホームステイし、「生きた語学力」を身につけます。また現地の企業の方との交流を通して、国際的な感覚を養うことも行います。

本大会の重要な狙いは、「聞き手を意識して、自分の体験や学びを整理して説明・発表すること、そしてこれをすべて英語で行う」というところにあります。「ヒト、モノ、情報」がグローバルに展開する社会になり、情報や考え、気持ちを互いに伝えるために「英語」の必要性はますます増えています。国際観光ビジネス学科では、国際キャリア・観光ビジネスの知識と技能を学ぶとともに、高い英語運用能力を育成します。学生が体験した国際交流体験を英語で発表することで、学修の成果を確かめ、さらなる高い目標を考える機会としてもらうことをめざします。



Ⅱ 大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

05 大阪成蹊学園ピアノコンペティション めざせMaestro! 日頃の練習の成果を発揮

教育・保育の場では、音楽教育は非常に重要な役割を占めます。大学・短期大学ともに多くの学生が教育・保育者を志す本学では「豊かな音楽表現活動」を実践できる人の養成を重要視し、「音楽教育センター」を中心に、ピアノの演奏技術の習得をサポート。各学生の習熟度を14段階に分けて把握する「ピアノグレード」やオリジナルの弾き歌い本を活用したピアノ実技指導が充実しています。

「めざせMaestro!大阪成蹊学園ピアノコンペティション」では、より具体的な目標を掲げて普段の学びのモチベーションを高め、学生が確かな音楽表現力を獲得することを目的としています。ピアノ曲部門と弾き歌い部門の2部門がレベル別に設定されており、多様なレベルの学生が挑戦できます。

2017年12月には大学・短期大学合わせて約100名が参加し、それぞれが個性溢れる演奏を披露、審査の結果、両部門1位から3位の入賞者が表彰されました。目標に向かって練習した成果を人前で発表するという経験を通して、自らの成長を実感し、現場で実践するための力を養うことができます。



もっと知りたい 大阪成蹊学園の学び

大阪成蹊学園の

人と人をつなぐ食の学び

本学園では、大学・短期大学・高等学校において「食」に関する学びを幅広く展開しています。外部団体と連携した特別授業やイベントへの参加、コンテストへの挑戦を通じ、より実践的に学びを深めています。ここでは2017年度の大学・短期大学での食の学びの活動をいくつか紹介します。

Ⅱ 大阪成蹊短期大学 調理・製菓学科 × JA全農とくしま

オリジナルレシピで
食材の魅力を引き出す！

JAと連携した料理コンテスト

本学は大阪府中央卸売市場と連携協定を結んでおり、それに基づいた様々な産官学連携プロジェクトを行っています。その1つが、2017年10月に調理コースで行われたレシピコンテスト。「JA全農とくしま」と連携し、徳島県の特産品である「れんこん」と「なると金時」を使ったレシピの考案に取り組みました。



どうすれば素材の魅力が最大限に活かせるか
—から自分で考える、貴重な経験

今回のコンテストに先立ち、学生は徳島県での収穫体験に参加して、食材に対する知識や農家の方のこだわりをもとに「どんな料理が良いのか」「どう調理すれば素材の味を最大限活かせるか」を考え試行錯誤しました。メニュー考案から調理・提供まですべてを自分だけで行うというのは、学生にとって非常に貴重な経験になったと思います。



調理・製菓学科長 松野陽 教授

学生の柔軟な発想の料理に感動

「家庭で簡単に調理できて、若い消費者のニーズに合う料理」というテーマのもと、学生らしい柔軟な発想の料理が出揃い、どれも想像以上の完成度で感動しました。丹精込めて作った食材を魅力的に料理していただけるのは大変喜ばしいことです。将来素敵な料理人になって、徳島の食材をたくさん使ってもらいたいですね。



JA全農とくしま 副本部長 長江 郁哉 様

コンテストの流れ

産地見学会

実際に徳島のなると金時農家とれんこん農家を訪れ、収穫体験などを通じて食材の特徴や農家の方々のこだわりに触れました。

レシピの作成

現地で得た知識をもとに、れんこんとなると金時の2部門に分かれ、学生一人ひとりが食材と向き合っレシピを考えます。和洋中などジャンルは問いません。

コンテスト(試食・審査)

制限時間内に仕上げるだけでなく、1口でも料理の味がわかるようすべての要素を試食用のスプーンにおさめなければなりません。手早く調理し美しく盛り付けます。「見た目・味・指定食材の特徴が活かされているか」の3つの基準で、関係者の方々と本学教員による審査が行われました。

JA全農とくしまのリーフレット、WEBサイトなどで活用

入賞した料理は今後、JA全農とくしまのリーフレットやWEBサイトに掲載され、食材の消費宣伝に活用される予定です。



個性豊かな39のメニューが並びました！

受賞した学生を直撃！
食材の良さを最大限に引き出すメニューと調理方法を考える
ターゲットを見据えて考える力をつけていきたい

寺西 亜佳莉さん
(2年生)れんこん部門最優秀賞
「れんこんのどんぶり蒸し」考案

れんこんの穴の開いた形状や、シャキッとした歯ざわりが最大限に生きるよう、厚みや切り方、とろりとしたあんとの合わせ方を工夫しました。選ばれて本当に嬉しいです。今後はさらにターゲット層やニーズを見据えて料理を考える力をつけていきたいです。

野口 紗来さん
(2年生)なると金時部門最優秀賞
「ほっこりなると金時の
あんかけ揚げまんじゅう」考案

調理する際に、なると金時を生のまま潰して揚げることで、ほっこりとした柔らかい食感が際立つようにしました。さらにあんかけにすることで、食べた人が思わずほっとするような温かい味わいにできたかなと思います。一からレシピを考案したことで、食材と向き合うことの大切さを改めて実感しました。

Ⅱ 大阪成蹊短期大学 栄養学科

食と健康の大切さ、料理の楽しさを伝える「食育シンポジウム」

栄養学科では、「いただきます」で育もうをスローガンに、大阪ガス株式会社と連携した「食育シンポジウム」を開催しています。

昨年9月に開催された第6回では、「和食と子どもの成長」に焦点を当て、様々な講義や体験を行いました。子どもたちが本学学生と共に調理をし、来場者に提供する「こども茶屋」では、子どもたちがガス火で炊いたご飯などを用意して、定食作り挑戦。「お店屋さん」になりきって準備する子どもたちの健気な様子に、会場には笑顔が溢れていました。「美味しく料理して皆で食べ、きちんと片付ける」こうした一連の行為を通じて食の大切さを学びます。



その他にも、子どもが自分でお弁当を作る「弁当の日」提唱者の竹下和男氏による講演や、大阪ガスの食育についての講座など、「食」に関する学びが盛りだくさんの一日となり、料理の素晴らしさ、そして家族団らん・食の大切さへの理解が深められたようでした。

栄養学科では今後も様々な活動を進め、食の大切さを伝え自立心を育み、未来の子どもたちの健全な成長の一助となることをめざします。



Ⅱ 大阪成蹊大学 マネジメント学部マネジメント学科 食ビジネスコース

百貨店で「青果売場」のアイデアを提案、食品流通の現場を体験

大阪府中央卸売市場と連携したPBL(課題解決型学習)授業の一環として、仲卸の林田商店が運営する京阪百貨店すみのどう店の青果売場で、売場企画の提案を行いました。

学生たちはグループに分かれ、店舗とともに売場のテーマを選定し、約2ヶ月間打ち合わせを重ねてアイデアを練りました。店舗へのプレゼンテーションの結果、「さっぱりレモン鍋」と「徳島産野菜で今日のお味噌汁」が採用されました。

効果的な売場のレイアウトの検討や、コンセプトを分かりやすく伝えるPOPを作成するなど、入念に準備・設営を進め、売場開設当日を迎えました。

「さっぱりレモン鍋」の売場では、徳島県産の野菜とレモン鍋スープのクロス販売(＝目的の商品に関連する別の商品とを組み合わせる)を行い、大成功。名産の



なると金時をはじめ、大根、茄子、わかめ、ひらたけなど徳島の食材をたっぷり使った「徳島産野菜で今日のお味噌汁」の提案でも、徳島県のマスコットキャラクター「すだちくん」と一緒に学生たちも売場に立ち、子どもから大人まで多くの方に足を止めていただきました。また、学生たちは積極的に話しかけも行い、徳島県の青果物の魅力や活用法をPRし、売場を賑わせました。一貫した体験を通じて食品流通を学び、

「顧客に商品の魅力を伝えて販売を促進する」方法を考える力を身につけることができました。



Ⅱ 大阪成蹊女子高等学校

高大連携による実習授業が充実

大阪成蹊女子高等学校では、「食物調理製菓レーン(普通科・キャリア進学コース)」で多くの生徒が学んでいます。短期大学の調理・製菓学科と連携し、最新の機器や設備などを備えた実習室で、料理やお菓子を業界トップクラスの食のプロから学ぶことができます。

2年生全員が受験する料理検定3級には、毎年約70%の生徒が合格。さらに、パティシエをめざす際に役立つ、製菓衛生師の免許取得を視野に入れた指導を行っています。その他にも食品関係の工場見学やロールケーキの商品開発など、さまざまな体験学習を行い、将来の夢に向けて知識を養います。



大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

大阪成蹊大学・短期大学のグローバル教育 ～より高度な英語教育の実現に向け、「英語教育センター」を設立予定～



大阪成蹊大学 副学長 国枝 よしみ
国際観光ビジネス学科長 兼
「英語教育センター」センター長 就任予定

2018年4月、大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学における英語教育の充実を目的とした「英語教育センター」が中央館1階に発足します。センターにはネイティブの教員や英語の堪能なスタッフが常駐し、学生の皆さんの英語コミュニケーション能力の向上を図ります。普段から英会話にチャレンジし、英会話のイベントなどに参加することにより英語がぐっと身近なものになるようサポートします。具体的には、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の向上を図る企画や教材・機器の充実、TOEICな

さらに!

同年4月開設のマネジメント学部「国際観光ビジネス学科」や、教育学部教育学科「中等教育専攻 英語教育コース」の学生の皆さんについては、この英語教育センターで学科の英語授業と連動した個別指導を受けたり、英語プレゼンテーションの練習や資格対策講座に参加したりすることができます。また、英会話イベントにも企画から携わり、様々な経験を通して英語の基礎・応

どの資格対策講座も定期的に開催する予定です。また、英会話を含む学修指導や留学に関する個別相談についても事前予約制で受け付け、できるだけ多くの学生一人ひとりのグローバルな学びを支援します。

さらに2019年3月には現在のキャンパスの北西すぐの所に、上品な外観の4階建ての**新校舎「グローバル館」**が完成予定で、英語教育センターはその1階に移転します。英会話を楽しみながら、最新の教材に触れたイベントに参加したりでき

る「English Studio」というスペースを設けるなど、全学的なグローバル教育を推進する中核として機能します。

大阪成蹊大学・短期大学では、今後英語教育センターを中心にますますグローバル教育に注力し、英語コミュニケーション能力の向上のみならず、グローバル社会に対応できる人材育成を担う高等教育機関としての役割を果たしてまいります。ぜひご期待ください。



▲「グローバル館」完成イメージ

用能力を身につけ、双方が目標として掲げる「TOEIC730点」を超えるようチャレンジできます。各国の英語学校や大学の教育内容や生活環境、アクティビティに関する情報提供を行い、安心して短期海外研修や長期留学ができるよう手続きや相談の窓口としても機能します。

※今後の計画については変更になる場合があります。



大阪成蹊短期大学

海外研修参加者の声

世界中に通用する美味しい菓子を作りたい

参加プログラム:「食文化演習(正課内)」(2017年9月、7日間) 渡航先:スペイン、フランス(バスク地方)

和菓子職人である父に「洋菓子の道に進みたいなら、色々な国の菓子作りを実際に見ておいで」と背中を押され、参加を決めました。研修ではスペイン・フランスにまたがるバスク地方を訪れ、数々の人気の菓子店や歴史ある老舗店で試食や工房見学を行いました。本場ならではの魅力的な菓子や設備はどれも大変興味深く、あらゆる面で日本との違いや共通点を見つけることができました。



MOF(＝フランスの国家最優秀職人章)を持つシェフから講習を受けるという貴重な機会もありました。シェフによると近年のフランスではやわらかくあっさりとした菓子が好まれる傾向に変わってきているらしく、その点は日本と似ているなと感じました。

アルチャング調理・製菓専門学校では「ガトーバスク」の製造を体験しました。現地では非常にメジャーで伝統的な菓子で、各家庭で味やレシピが異なるそうです。現地の学生さんたちとコミュニケーションを取りながら菓子を作れたことは貴重な経験でした。生地が柔らかく、作るのが難しかったですが、基本的な製法が主だったので、普段の授業で学んだ技術が生かせたと思います。その他、ワイン工場の醸造見学やミシュラン星付きレストランでの食事、市街地に立ち並ぶ「バル」での食事などを通して、菓子だけでなく料理の観点からも現地の食を幅広く学ぶことができました。



7日間、はじめての菓子や料理をたくさん食べ、知らないことを最大限に吸収できました。研修で出会った方々はどの方も菓子作りに対する姿勢が情熱的で私自身のモチベーションも非常に上がりましたし、それぞれの国で味の好みは違っても、みんな美味しいものが大好きで、食べる人に喜んでもらうと工夫を重ねる作り手の想いは同じなのだと思えて実感しました。

この研修をきっかけに、菓子の味や製法について、海外も視野に入れてさらに深く学びたいと思うようになりました。いつか自分の店を持って、世界のどんな国でも美味しいと言ってもらえるような菓子を作りたいです。



大阪成蹊短期大学
調理・製菓学科
製菓コース1年生
室 朋未さん

びわこ成蹊スポーツ大学

台湾・国立台東大学と交流試合 スポーツで国境を越える

協定校である台湾・国立台東大学の硬式野球部が2017年7～8月に合宿のため来日し、本学硬式野球部との交流試合を行いました。



初回、台東大学がホームランで先制し、力強いスイングに圧倒される展開で試合が始まりました。本学硬式野球部は、投手が粘り強く投球し、守備からリズムを作りました。2回に一挙6得点を挙げ逆転。その後、徐々に追いつけられ8回表に同点に追いつかれるも、8回裏に決勝点を挙げ、9-8で本学硬式野球部が勝利を収めました。試合後には互いに記念品を手渡し合い、今後の両チーム・両大学の発展を願いました。

試合に参加した本学硬式野球部の選手たちは、「自分たちの“野球”と台東大学の“baseball”の違いを感じました。台東大学硬式野球部のパワー溢れるスイングのスピードや打球の飛距離には驚きました。一方で、バントや盗塁など小技を絡めた自分たちの野球が相手に通用したことは、大きな自信に繋がった。同じアジア・同じ競技でも、プレイスタイルや文化の違いを感じました。」「言葉は通じなくても、スポーツを通して熱くなれました。スポーツの本来の魅力を改めて感じ、とても貴重な時間を過ごすことができました。」など、充実感たっぷりに語りました。

日頃から取り組む競技を通じて、国を越え文化を越え、新たな発見で視野を広げることができました。

大阪成蹊女子高等学校

オーストラリア・メルボルンの合唱団が来校 本校コーラス部と歌で交流

2017年10月3日(火)、オーストラリア・メルボルンで活動する合唱団「Young Voices of Melbourne」が来校しました。当日は歓迎セレモニー・校内見学の後、図書館棟7階ホール



で、本校生徒52名が所属する学園コーラス部との交流演奏会が行われました。はじめに舞台上に上がった合唱団は、12歳～18歳までの男女が奏でる表情豊かなハーモニーで、オーストラリアの伝統的な曲を中心に5曲続けて披露しました。締めくくりには日本の代表的な曲「さくら」を日本語でしっかりと歌い上げ、観客からは感動の声が漏れていました。学園コーラス部は、お返しとしてオーストラリアの代表的な曲「ワルティングマチルダ」を歌い、続いて「ほたるこい」や「君が君に歌う歌」など日本で古くから親しまれる童謡を披露、練習の成果を出し切ることができました。鑑賞した1年生約350名も双方の美しい歌声に聞き惚れてい

ました。また、演奏会後には合同練習会・交流会が行われ、互いにコミュニケーションを取りながら歌と会話を楽しみました。歌という共通のものを通じた国際交流は、生徒たちにとって忘れられない思い出となりました。

大阪成蹊大学 芸術学部

就職率[※]98.2%! 近隣の芸術系大学の中でもトップクラス!活躍するクリエイターをめざして
～社会を変えられる芸術力を身につける～

現在日本では、アニメーションや漫画をはじめとしたカルチャーが世界中から注目されており、その表現の場は多岐にわたっています。芸術学部では、学生の持つ表現力や技術をさらに向上させるため、芸術・デザインの知識だけでなく実践的な技術をより深く理解できる工夫をしています。各コースにおける作品制作では、課題の解決とプレゼンテーションを繰り返すことで技術力と表現力を高めています。

クリエイターとして活躍するためには、専門性のある技術の修得はもちろん、それを社会で活かすための「人間力」も重要。本学部では、実際に社会に出た際に現場で必要となる「チームで働く素養」や「コミュニケーション能力」を重視し、キャリア教育を実践しています。演習や実習授業では、企業や地域とともに学ぶ産官学連携やフィールドワークに積極的に取り組み、企業・社会が求める能力を身につけることができます。

あらゆる業界の仕事に就いても活躍できる人間力を育成しているということが、本学部が98.2%^(※)という近隣の芸術系大学の中でもトップクラスの高い就職率を誇っている理由でもあります。また、このように働く現場を意識したカリキュラムを早期から実施することで、夢を実現するステップを着実に描くことに繋がります。

芸術学部には、第一線で活躍するクリエイターが教員として多数在籍します。教員が一人ひとりの学生に対して親身に相談に乗り、目標のためのプロセスを指導しますから、プロをめざすには絶好の環境です。加えて就職活動の際には就職部による徹底した個別サポートと連携して、希望の進路を実現します。

大阪成蹊大学芸術学部で「社会を変えられる芸術力」を身につけ、芸術による社会貢献ができる人間として、世界へとはばたきましょう。
※…2017年3月卒業生

大阪成蹊大学 芸術学部長
門脇 英純 教授

志望企業に入社・内定を決めたお二人にお話を伺いました!

株式会社
スタジオジブリ入社

芸術学部 造形芸術学科
アニメーション・キャラクター
デザインコース 2016年卒業

宮野 紗帆さん

—夢にまで見た
憧れの職場—

幼い頃からアニメーションが好きで、毎日のように絵を描いていました。高校生の頃ある少女漫画雑誌に投稿して小さな賞を頂いた時に、「絵を描くことを仕事にしたい」という思いが生まれました。

大阪成蹊大学の芸術学部は良い意味で規模が大きすぎない所が魅力です。気軽に質問や相談ができる環境で、自立して制作する力を養えたと思います。通学面でもアクセスがよく、ストレスなく作品制作に時間をかけられたことも大きかったです。

担当教員の糸曾賢志先生には本当にお世話になりました。

アニメーター職の大変さについては先生方からも聞かされていましたが、皆さんとても楽しそうに話されるので「面白いはず」と確信し、卒業後はアニメーション制作会社に就職しました。そこでは元請け作品や他社作品の動画を担当し、動画監督の指導のもと、動画検査などをさせて頂きました。実際に現場に出ると、社内外とコミュニケーションを取ってあらゆる人の意見を汲みながら仕事をする必要があるのも、ただ座って絵を描いているだけというわけにはいきません。技術だけではなくことを痛感しました。

糸曾先生は10代で宮崎駿監督に師事し、映像監督として数々の作品を手がけていらっしゃいます。先生はアニメーション業界をめざす私に常に色々な情報をくださって、卒業した今でもお世話になっています。先生の話聞くといつも「業界で働くにはここまで考えないといけないのか…」と身が引き締まります。また、アニメーション監督である坂本一也先生にもたくさんご指導いただきました。第一線で活躍している方々に直接指導を受けられる、恵まれた環境だったと改めて思います。

その後、仕事をしながら絵を描いてスタジオジブリに応募し、内定をいただくことができました。夢にまで見た場所で働いていた方たちと働ける毎日とはとても刺激的で、大きなやりがいがあります。今はまだ入社したばかりですが、1つ目の会社で仕事の流れを理解していたことが非常に役に立っています。

学生時代は課題制作などで常に時間に追われ、大変でした。当たり前ですが、作品制作において納期を守るということは非常に重要です。どれだけ素晴らしいものが出てきても、納期が過ぎてしまうと作品は正當に評価されません。しかし過去の経験から、「自分が毎日どのペースで描いているか、難しい動きの部分にはどのくらい時間をかけたいか、早く描ける部分はどこか」などを見極める習慣が身につきました。これを常に心がけ、難しいカットを計画通りに上げられた時には達成感があります。

現在はただ目の前の作業をこなすだけでなく、レイアウトをしっかりと見るなど常に与えられたもの以外の課題を見つけてプラスαの価値を付加しようと心がけています。今後は動画も原画も基礎をしっかりと身に付け、いつか作画監督としてアニメ作品のビジュアルディレクションをできたいと思います。

学生時代は、挫折や後悔を含めて好きなことに夢中になれる貴重な期間です。まだ好きなことが見つからない人にとっても、大阪成蹊大学芸術学部はたくさんの学びや人に出会える絶好の場所。充実した環境で学び、一緒に夢をつかみましょう。

株式会社カプコン内定

芸術学部 造形芸術学科
アニメーション・キャラクター
デザインコース 4年生

石川 優作さん

—夢中になれる「モデリング」との出会い—

私は4年間を通して、3次元グラフィックスでモデル(物体)を造形する「キャラクターモデリング」に特化して取り組んできました。モデリングとは、人間やモンスターなどのクリーチャーを、画面上でデジタルの彫刻のように作ることができる技術です。モデリングとの出会いは、芸術学部で行われる3DCG制作ソフト「ZBrush」を使った授業でした。授業ではソフトの操作基礎から応用までしっかり習得でき、制作したモデルデータを3Dプリンタで書き出してオリジナルのフィギュアを作ったりもします。それも、数少ない「ZBrush」公認インストラクターである和田真一先生の指導のもとで学べるという非常に恵まれた環境でした。

コースにはアニメーション、キャラクター、CGモデリング、ゲームデザインなど様々な分野で活躍する先生方がいらっしゃ

いますが、中でも和田先生は3DCGのプロフェッショナル。

そんな先生にキャラクターデザインの技術・考え方を直接教われたのは大きかったです。普段からゲームはもちろん、映画などもよく観ますが、そういった既存の作品の世界観にインスピレーションを受けることが多いです。また筋肉や骨格、皮膚の質感をリアルに再現するためにも、人体や動物について日頃から資料を見て勉強しています。今の目標は、女性キャラクターを魅力的に作ることで。カプコンでは選考段階でポートフォリオを見せる機会があり、そこで作品を目にとめていただけたのがきっかけでした。いわゆる2Dアニメ的な作品を得意とする学生が多く集まっていた中、私のように「リアル寄り」なものを中心に取り組んでいた学生は少なかったようで、良い評価をいただきました。カプコンにはフォトリアルな映像を追求した作品も多いので、世界観と自分の作風がマッチしたと言えるかもしれません。これからキャラクターデザインの経験をたくさん積んで、一人前のデザイナーになりたいです。いつか全く新しいゲーム制作にスタートから携われたら素敵だなと思います。

後輩の皆さんには、ゲームでも映画でもアニメでも漫画でも、たくさんの作品に触れて表現を吸収してほしいです。

大阪成蹊大学芸術学部には、自分が本当に熱中できる分野を見つけて、それを大きく伸ばすことのできる環境があります。ぜひ自分だけの作品を生み出してください。



▲石川さんの作品。2年次の授業で作った成人男性のCGモデルをアレンジして、人型のクリーチャーを制作した

“ZBrush”? 映像やゲーム、フィギュアなどの制作に不可欠な3D彫刻ツール“ZBrush”

“ZBrush”は、コンピュータの操作技術が必要なこれまでの3DCGとは異なり、ブラシ感覚で直感的に造形できるのが特長です。アニメーションやゲームのクリエイターはもちろん、フィギュアのプロトタイプ、宝石のデザイナーなどにも使われています。芸術学部では、世界でも数少ない“ZBrush”公認インストラクターである和田真一准教授から直接指導を受けることができます。

スポーツ・クラブ活動

照準は、世界へ。

大阪成蹊学園の活躍するアスリートたち

■ 大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

大阪成蹊大学女子陸上競技部の中村水月選手（マネジメント学部スポーツビジネスコース4年生）が、2017年8月19日（土）～8月30日（水）に台北で行われた「第29回ユニバーシアード競技大会」に女子200m、4×100mリレーの2種目で出場しました。女子200mでは準決勝進出を逃したものの、女子4×100mRでは第2走者としてバトンをつなぎ、日本は44秒56で見事銅メダルを獲得しました。男子4×100mRでは、日本が金メダルを獲得。男女そろって有終の美を飾りました。

また、9月8日（金）～9月10日（日）に行われた「第86回日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）」では、個人として女子100m、200m、4×100mRの3種目で優勝。女子陸上競技部としては、総合第3位、多項目優勝の部では3年連続となる優勝（5種目）を飾りました。

昨年度の総合優勝に続く2連覇とはなかったものの、部として総合力の成長を見せる結果となりました。中村選手は「3冠達成という、目標にしていたことを達成できた部分は自分を褒めたい。来年は後輩たちに総合優勝めざして頑張ってもらいたい」と語り、自身は2020年東京オリンピックというさらなる高みを見据え、今後の活躍を誓いました。

写真提供：月刊陸上競技



中村 水月 選手

大阪成蹊大学 マネジメント学部
スポーツビジネスコース4年生

ユニバーシアード
銅メダル!!

日本インカレ3冠!!
女子陸上競技部総合3位!!

第86回日本学生陸上競技対校選手権大会 結果詳細

女子学校対校	総合第3位		
女子学校対校多項目優勝	優勝(5種目) ※3年連続		
女子100m	優勝	中村 水月	11秒56(+2.3)
女子200m	優勝	中村 水月	23秒81(+1.3)、第2位 柴山沙也香 23秒98(+1.3)
女子400m	第7位	青山 聖佳	57秒14
女子100mハードル	第6位	松尾 実香	13秒58(+2.5)
女子4×100mリレー	優勝	柴山 沙也香・中村 水月・柳谷 朋美・朝野 夏海	45秒20
女子4×400mリレー	第4位	春木 麻実伽・安井 彩奈・伊藤 里帆・青山 聖佳	3分43秒56
女子走幅跳	優勝	辻本 愛莉香	6m39(+3.0)
女子三段跳	優勝	河合 葉奈	13m05(+1.9)

写真提供：
月刊陸上競技

世界大会で表彰台へ!! バトントワリング部

8月3日（木）～8月13日（日）、バトントワリング世界大会「2017年IBTFLランプリ大会（8/3-8/6）」と「第9回WBTFインターナショナルカップ（8/7-8/13）」が開催され、高橋一生選手（マネジメント学部スポーツマネジメント学科2年生）、廣瀬愛選手（マネジメント学部スポーツマネジメント学科1年生）、杉山一花選手（マネジメント学部スポーツマネジメント学科1年生）が出場しました。世界19ヶ国のべ約1,000人の選手が開催地クロアチアに集まる中、高橋選手は3種目に日本代表として出場し、銀・銅メダル、廣瀬選手も2種目出場し銀・銅メダルを獲得。スリーバトンの杉山選手も4位入賞と結果を残しました。



まだまだあります!～クラブ・個人大躍進～

大阪成蹊大学

全国大会2年連続準優勝 フットサル部

8月25日（金）～8月27日（日）に開催された「第13回全日本大学フットサル大会」で、フットサル部が昨年に続き見事準優勝を勝ち取りました。全国大会出場は7度目、昨年決勝で敗れた順天堂大学にまたしても僅差で無念の涙をのみました。次年度、悲願の優勝に向けて期待が高まります。



国体準優勝 ソフトテニス部

9月30日（土）～10月10日（火）に開催された「第72回国民体育大会」で、ソフトテニス部の芝井幸太郎選手が三重県代表として出場し、準優勝を勝ち取りました。



びわこ成蹊スポーツ大学



世界陸上
5位入賞
陸上競技部

2014年卒業生で愛知製鋼株式会社陸上競技部所属の丸尾知司選手が、8月にロ

ンドン・バッキンガム宮殿前で開催された「第16回世界陸上選手権大会」男子50km競歩に出場し、3時間43分03秒のタイムで自己新記録を大幅に更新、見事5位入賞を果たしました。

大阪成蹊女子高等学校

金賞受賞 学園コーラス部

8月27日（日）に開催された「平成29年度大阪府合唱コンクール」高校の部に大阪府下から11校が参加し、本学園コーラス部が見事金賞を受賞しました。コーラス部には大学生、短期大学生、



高校生の部員が所属し、今回は高校生が参加しました。

インターハイ出場! 水泳部

8月17日（木）～8月20日（日）に開催された「全国高校総体」に2年生の梶田明日香さんが200m・400m自由形で出場しました。7月に行われた近畿地区予選では、両種目とも自己ベストを更新。インターハイでは、昨年に引き続き400m自由形で26位という結果に終わりましたが、10月に行われた近畿新人水泳競技大会400m自由形では優勝し、来年、愛知県で開催される全国インターハイ上位入賞とリレー種目での出場に向けて闘志を燃やしています。



■ びわこ成蹊スポーツ大学

躍進を
続ける
サッカー部

リーグ優勝!!

ーインカレは第1代表にー



びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部は第95回関西学生サッカーリーグ1部において順調に勝ち点を重ね、見事初のリーグ優勝・関西制覇を果たしました。12月13日（水）から行われるインカレへ関西第一代表として出場します。3年前、全国3位に泣いたサッカー部。今年こそ全国制覇・大学日本一をめざし戦います。

※2017年12月1日時点の情報です。

■ ユニバーシアード金メダル!!



宮 大樹 選手

びわこ成蹊スポーツ大学
スポーツ学部 スポーツ学科4年生

来季にはリーグ(J1)ウィッセル神戸への加入が決定しています。開学から14年、10人目のリーガーとして、いよいよ今年度より本格的に活躍が期待されます。

8月19日（土）～8月30日（水）に台北で行われた「第29回ユニバーシアード競技大会」にサッカー部の宮大樹選手が日本チームのメンバーとして出場、日本は決勝でフランスを1-0で下し、3大会ぶりの金メダルを獲得しました。試合は開始27分に日本が先制。終盤のフランスのパワープレーに対して、長身のDF宮選手を投入し、1点を守りきり大学世界の座に輝きました。後日の祝勝会で宮選手は、「酷暑の台湾で2日に1試合というハードな大会でしたが、良いコンディションで試合に臨み、無事に優勝することができました。優勝に貢献することができて良かったです」と、日本代表のユニフォームを手に語りました。

■ Jリーグ加入内定



山本 義道 選手

4年生の山本義道選手の、J2・ツエーゲン金沢への加入が内定しました。山本選手は1年次よりサッカー部トップチームでプレー。長身を活かしたヘディングや正確なロングフィード、守備力の高さを武器に、宮大樹選手とともに守備の要となる存在です。



堂安 憂 選手

一方で、リーグ優勝にも大きく貢献した4年生の堂安憂選手は、J3・AC長野パルセイロへの加入が内定しました。今季リーグ戦は全試合スタメン出場中。キレのあるドリブルからチャンスメイクができるFWで、攻撃の主軸として活躍しています。

その他のお知らせ

大阪成蹊学園

第7回 全国アート&デザインコンペティション
[THEME] 未来への発信Osaka Seikei
ART & DESIGN
Competition 2017

審査結果

総評▶大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション審査副委員長 大阪成蹊大学 芸術学部長 門脇英純

第7回大阪成蹊全国アート&デザインコンペティションの審査結果が決定しました。昨年に引き続き「未来への発信」をテーマに昨年に大きく上回る数多くの応募がありました。中学生作品703点(112校)、高校生作品1540点(116校)、全体としては2,243点と、北海道から沖縄まで全国各地から多数の作品をご応募いただきました。いずれも力作・秀作が揃い、本コンペティションを大いに盛り上げていただきました。お世話になった関係各位とともに、ここに感謝の意を表します。誠にありがとうございました。

出品いただきました中学校、高等学校の先生また生徒の皆さんには、来年もぜひとも奮ってご応募いただきますようお願い申し上げます。

◆中学生の部



大阪成蹊芸術大賞



▲大阪成蹊芸術準大賞



▲毎日新聞社賞



▲A部門金賞



▲B部門金賞



▲C部門金賞

大阪成蹊芸術大賞 熊本信愛女学院 竹田 六花 さん 【もしもし、水星人さん。あの貸した本はどうでした?】
中学校1年

大阪成蹊芸術準大賞 摂津市立第二中学校3年 檜原 実奈 さん 【開花して咲き続ける】

毎日新聞社賞 大阪市立新東淀中学校2年 伊山 真央 さん 【幾多の未来】

・A部門金賞(グラフィックデザイン・イラストレーション) 堺市立東百舌鳥 有田 幸樹 さん 【共生】
中学校3年・B部門金賞(マンガ・キャラクター) 明石市立衣川 吉母 美鈴 さん 【竜宮城の王女様】
中学校2年・C部門金賞(美術) 豊中市立第十三 菊池 美空 さん 【赤】
中学校3年—大阪成蹊短期大学附属—
こみち幼稚園だより 「どうして?」??
科学遊びで不思議を感じる心を育む

こみち幼稚園では、2017年度から「ふしぎタイム」が始まりました。大阪成蹊大学教育学部の福岡亮治講師と教育学部の学生の皆さんにお越しいただき、年長児を対象に、いろいろな科学遊びを体験する機会を設けています。

偶数月に開催しているふしぎタイム。第3回目となった10月には、「いろいろなものを飛ばそう」をテーマに、ペットボトル、風船、ボール、綿棒などにひと手間加えたものを飛ばしました。



目の前でぐんぐん高く、遠く飛んでいく様子に子どもたちは思わず体が前のめりになります。「すごい!」「なんで、そんなに飛ぶの!?!」「ほくも、わたしも飛ばしてみたい」、息をのみ、集中して見入っていました。

ふしぎタイムの回を重ねるごとに、子どもたちの「今日は何なことが起きるのだろう」というワクワクした気持ちが大きくなっているようです。「なぜ?」「ふしぎだな」「おもしろいな」という思いは、子どもの心を揺さぶり、「やってみよう」と動き出すことにつながっています。このような経験を通して自ら主体的に関わっていく姿勢が育まれていきます。今後も大学、短期大学、高等学校との連携を互いに深め、様々な活動へと繋げていきたいと思っています。



◆高校生の部



大阪成蹊芸術大賞



▲大阪成蹊芸術準大賞

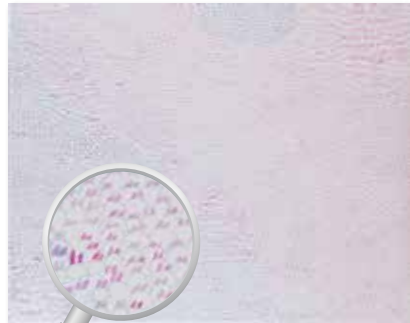
▶B部門金賞



▲D部門金賞



▲A部門金賞



▲毎日新聞社賞



▲C部門金賞



▲E部門金賞

大阪成蹊芸術大賞 大阪市立咲くやこの花高等学校3年 石津 花華 さん 【鈍行快速】

大阪成蹊芸術準大賞 奈良大学附属高等学校2年 宮内 翔梧 さん 【蛾と山羊】

毎日新聞社賞 大阪成蹊女子高等学校3年 高谷 琴美さん 【シロウサギウミウシの大作進】

・A部門金賞(グラフィックデザイン・イラストレーション) 和歌山県立紀央館高等学校2年 山本 妃奈さん 【頭の中】

・B部門金賞(マンガ・アニメーション) 大阪成蹊女子高等学校3年 中山 まりさん 【パドマ】

・C部門金賞(写真) 大阪府立成城高等学校2年 西脇 亜美さん 【修練】

・D部門金賞(ファッション・インテリア・プロダクトデザイン) 大阪市立工芸高等学校3年 田中 正太郎さん 【DENT STOOL】

・E部門金賞(美術・工芸(絵画・立体・工芸)) 京都府立宮津高等学校3年 矢野 七鼓さん 【共生】

学園同窓会「蹊友会」

年に1度の親睦会「秋の集い」。今年も盛況

2017年11月26日(日)に、大阪成蹊学園 蹊友会の第13回「秋の集い」が開催されました。

当日はまず、大阪成蹊大学名誉教授である松田貴典氏による特別講演が行われました。情報法(知的財産権、情報関連法)などを専門分野とする松田名誉教授は、「著作権」に関する様々な話題について、身近な事例を交えながら説明しました。出席した卒業生の方々からは、



▲松田 貴典 名誉教授

「著作権についてきちんと知識を持っておく必要性を改めて認識した」などの感想が上がりました。

その後、大阪成蹊大学マネジメント学部(前・現代経営情報学部)、大阪成蹊短期大学、大阪成蹊女子高等学校の同窓会・懇親会も行われました。和やかな雰囲気の中、同窓生や恩師との久しぶりの交流に話も尽きず、会場は終始賑やかでした。

当日は学園吹奏楽部・学園コーラス部による演奏も行われ、会場を盛り上げました。学生・生徒たちのフレッシュな活力あふれる演奏が、出席者の方々の感動を呼びました。

ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。蹊友会では今後もますます活発な同窓会活動が続けてまいります。



▲学園コーラス部が歌唱を披露